



「この先生でよいか…」と揺らいだ時もありましたが、長い時間をかけて信頼関係を築けた喜びを語り、是非信頼される医療者になってほしいと望みました。

定するまでの短い時間で、がん特有の精神状態の中で、最良の治療方法を選択決定することは、がんの素人にとっては至難の業です。

で行われている今のインフォームドコンセント(医師からの説明を理解し納得して治療法に同意すること)は十分でしょうか。説明は十分かもしませんが、理解できるものでしょうか。一方的

感じます。それは、インフォームドコンセント前の患者との話し合い、病状以外の把握、そして正しい医療アドバイスです。この時期、患者は慰めより、一緒に治療法を考えてほしいと望んでいるのではないのでしょうか。その役割が看護師さんにあるのではないかと伝えました。

と適切な処置ができる医療者。お金もうけの医療者にならないで。自身の医療に満足を感じ自身も幸せになってほしいと結びました。たくさんのご要望だ講義は学生さんには重たかったかもしれないですね。

いま、医療者に求めたいこと

連休明けの7日、滋賀医科大学で「がん患者の視点から将来の医師、看護師さんに望むこと」という講義をしました。170人の学生さんはフレッシュで熱心でした。

23年前の乳がん発症当時、主治医は私にとって命を守ってくれる大切な人。恋人？否、敬慕とでもいうのでしょうか、夫以上の存在でした。順調でなかった経過の中で、



菊井津多子

生に執着のある人ばかりではありません。人生の捉え方は人それぞれです。「がんです」と告げられてから、治療法を決



あけぼの会が昨年行った啓発活動「母の日キャンペーン」に参加した滋賀県のメンバー

ではないでしょうか。患者をトータルで見ると判断されたものでしょうか。受けられる代替の医療情報は提示されているでしょうか。私は何かが欠けていると

最後に、命を預かっているというのを忘れないで。迅速で正確な診断

今日は「母の日」です。医学の進歩でがんは治る時代と言われるようになってきましたが、死に関わる病気であることには変わりありません。ご自身の為にもご家族の幸せのためにも、「是非、がん検診を受けてください」。このメッセージを、がんサバイバー(生還者)からあなたに届けます。(滋賀県がん患者団体連絡協議会会長)